

令和元年度 第10回 山口県文書館資料小展示

徳山毛利家文庫「木箱別置文書」の世界 その2

平成31年3月、徳山毛利家文庫の内、木箱などに収められていた文書を「木箱別置文書」と名付けて公開することとなりました(詳細は今年度第3回資料小展示参照)。

今回はその「木箱別置文書」を紹介する第2弾として、江戸に下向した公家の饗応関係文書を紹介します。

**〔江戸時代の公家参向と饗応〕**

江戸時代、幕府に対し朝廷から使者が遣わされることがありました。例えば、天皇の使者を勅使、上皇の使者を院使(上皇使・仙洞使とも)と言います。

勅使・院使をはじめ朝廷から使者が派遣される際、幕府は中・小規模の大名に対して彼らの饗応役(接待役)を命じます。よく知られる「忠臣蔵」も、これに関係するものです(勅使饗応役を命じられた浅野内匠頭が、指南役(饗応を指導する立場)の吉良上野介から受けた恥辱に耐えきれず刃傷事件を起こすというストーリーです)。

徳山藩もしばしばこれらの饗応役を命じられています。そのことはすでに公開している徳山毛利家文庫の冊子文書からも窺えます(徳山毛利家文庫「御馳走御勤記」参照)。それに加え、今回公開した「木箱別置文書」の10と11には、絵図なども含まれていて、儀式が執り行われた空間を視覚的に把握することができます。詳細な記録が残されたことから、これらの饗応が、先例を踏まえ、細心の注意を払って務めなければならないものであったことがわかります。

**【資料1】〔毛利淡路守覚書写〕 弘化2年(1845)9月**

徳山毛利家文庫 「木箱別置」10-2(17の1)

徳山藩主毛利淡路守(元蕃、もとみつ)が参向する公家のうち、仁和寺宮の饗応を幕府から命じられました。その際、饗応方法の先例を幕府に問い合わせ、幕府の指示に従うと言っています。

この時幕府は、享保7年(1722)に饗応役を経験した中川内膳正(豊後国岡藩(現大分県竹田市)の藩主)からも記録を借りるよう指示しています(焼失のため借りられず)。公家饗応にあたっては、大名同士で記録の貸し借りも行われていたのです。

《展示期間:1月5日(日)～1月21日(火)》

**【資料2】〔覚書〕 文化15年(1818)**

徳山毛利家文庫 「木箱別置」11-29(5の1)

文化15年2月30日から3月8日・9日の間、勅使・院使・中宮使・女御使が江戸に参向しました。それぞれの使者が派遣された理由も記されています。

《展示期間:1月5日(日)～1月21日(火)》

**【資料3】〔山科先大納言召供人数書〕 文化15年(1818)**

徳山毛利家文庫 「木箱別置」 11-17 (2の2) 1

文化15年に勅使として江戸に派遣された山科先大納言(やまなし さきのだいなごん)に従った人々です。83名もの「大人数」で江戸に参向したことが窺えます。

《展示期間:1月5日(日)～1月21日(火)》

**【資料4】〔毛利淡路守伺書写〕 弘化2年(1845)9月4日**

徳山毛利家文庫 「木箱別置」 10-2 (17の9)

仁和寺宮饗応を命じられた徳山藩。到着の報告と食事を済ませた報告をどのタイミングで行うべきか、幕府に問い合わせています。

幕府からの回答は高家(幕府の中で朝廷との儀礼に精通した家)から出ています。高家には、織田・武田・今川など、戦国大名の系譜をひく者もいました。

《展示期間:1月22日(水)～1月30日(木)》

**【資料5】〔勅使方伝奏手控〕 年未詳(1719)12月**

徳山毛利家文庫 「木箱別置」 11-4

勅使・院使の公卿接待の手控え。展示部分は彼らが能見物のため江戸城に登城した際、饗応を担当する大名の振る舞い方を記したものです。饗応担当の大名たちは公卿にいつも付き従い、着座の位置など細かい決まりがあったことが窺えます。

《展示期間:1月22日(水)～1月30日(木)》

**【資料6】御対顔之図 文化8年(1811)9月**

徳山毛利家文庫 「木箱別置」 11-7 (6の2)

勅使・院使が将軍(公方様)とその嗣子(大納言様)と面会する際の着座位置を示した図です。勅使は勅命の伝達時には上段に移動しています。

《展示期間:1月22日(水)～1月30日(木)》

**【資料7】公家衆御登城諸図 文化8年(1811)9月**

徳山毛利家文庫 「木箱別置」 11-7 (6の1)

勅使・院使の公卿が能見物のため江戸城に登城した際、将軍らとの対面時の位置関係を描いたものです。

《展示期間:2月1日(土)～2月16日(日)》

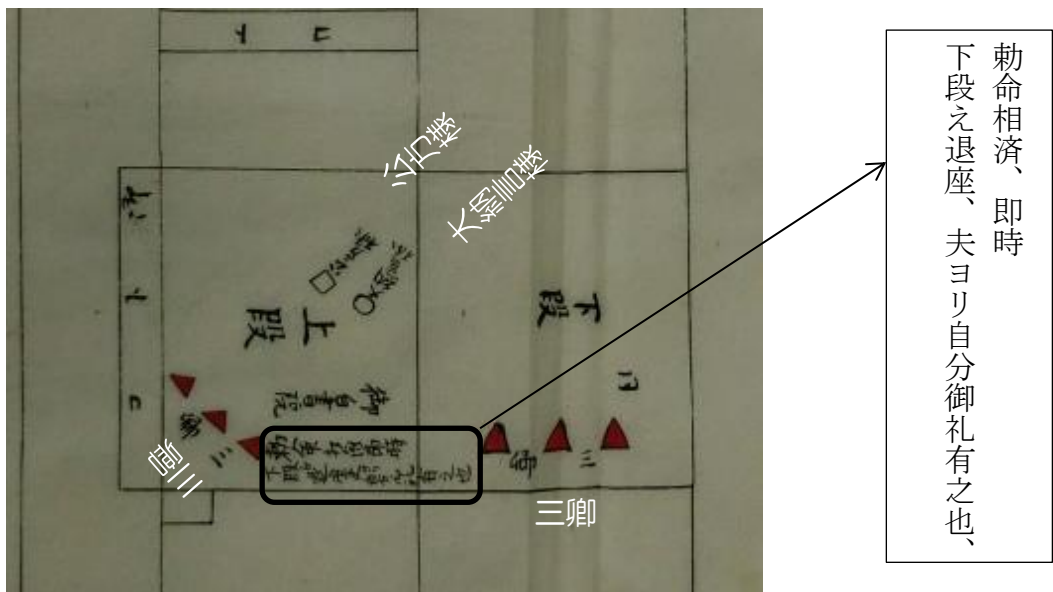
**【資料8】〔御能御着席図〕 文化8年(1811)9月**

徳山毛利家文庫 「木箱別置」 11-7 (6の5)

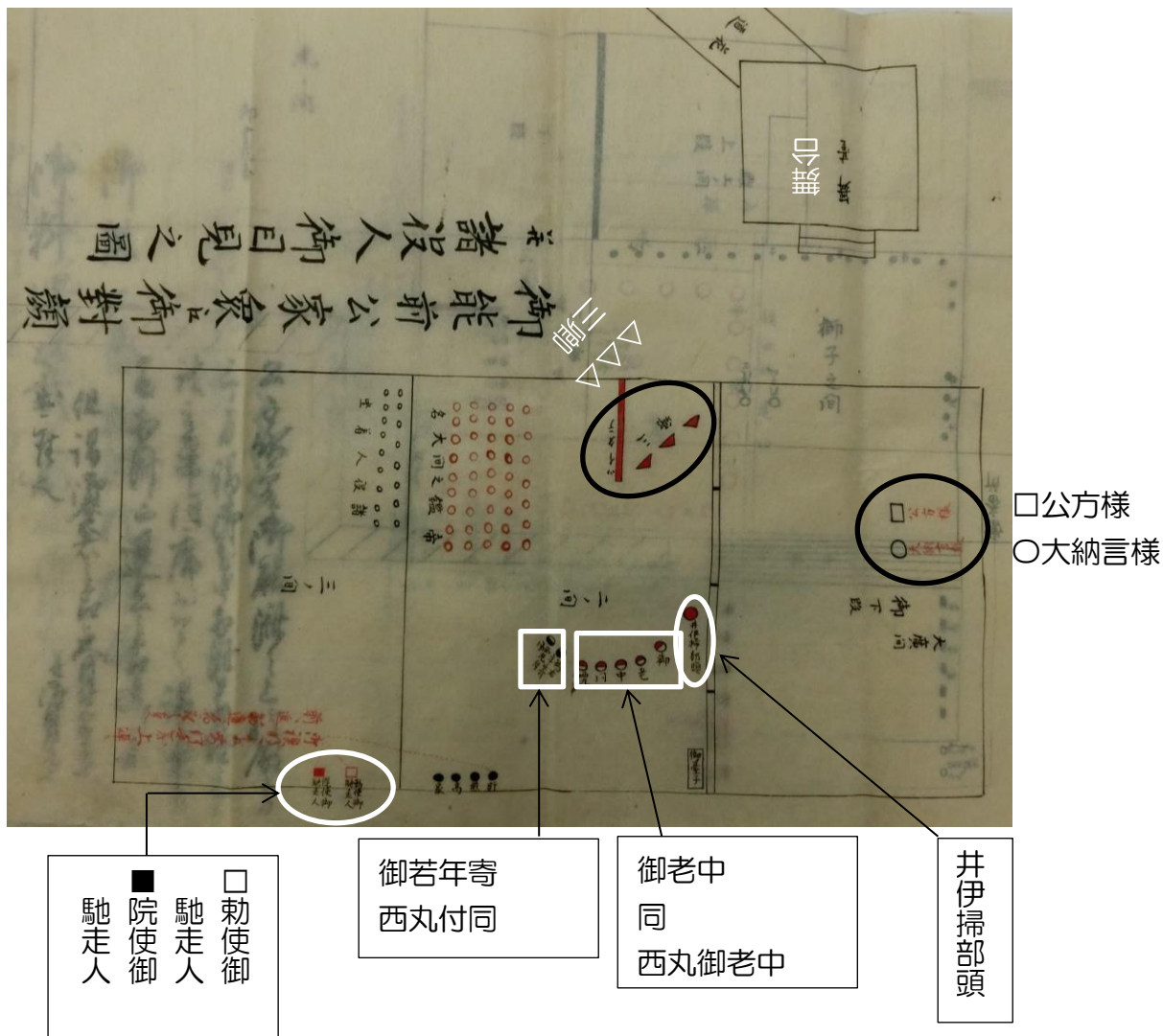
江戸城での能見物時の参列者の位置関係を描いたものです。勅使・院使は将軍や大納言と並んで見物しています。

《展示期間:2月1日(土)～2月16日(日)》

**【資料6】〔御対顔之図〕 文化8年(1811)9月**  
 徳山毛利家文庫 「木箱別置」 11-7 (6の2)

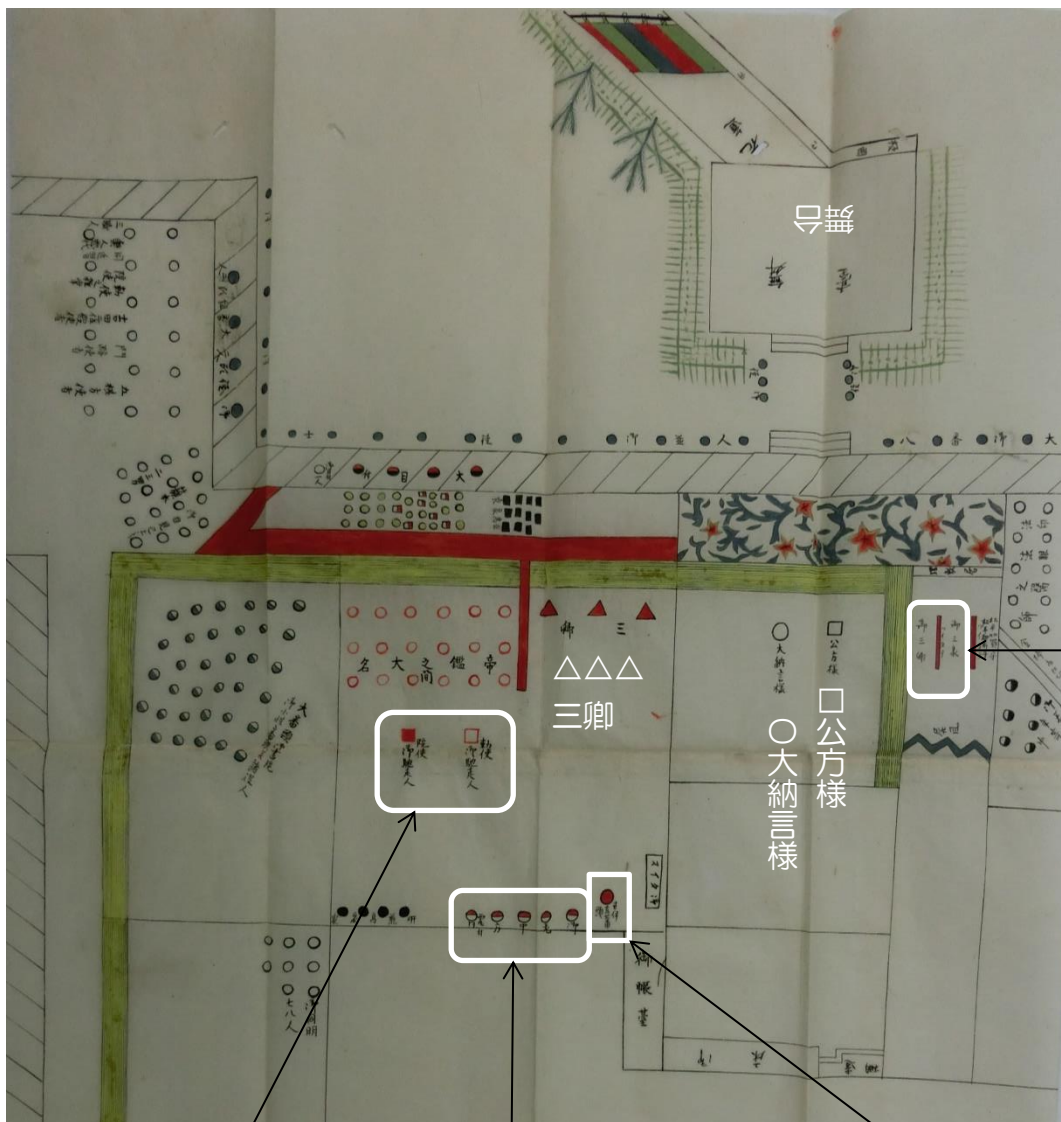


**【資料7】公家衆御登城諸図 文化8年(1811)9月**  
 徳山毛利家文庫 「木箱別置」 11-7 (6の1)



【資料8】〔御能御着席図〕 文化8年(1811)9月

徳山毛利家文庫 「木箱別置」11-7 (6の5)



御二家  
御三卿

■院使  
御馳走人

□勅使  
御馳走人

御老中方 西丸付同

井伊玄蕃頭 (ママ)